

戦後70年、あの戦争を忘れてはいけけない

語り伝えよう

戦争の怖さと悲惨さ

平和の尊さ

70年前の8月15日、多くの人の命が奪われ、身体と心に多くの傷跡を残した戦争が終結しました。

平和な現在を生きている私たちは、戦争体験者の経験と思いを知り、戦争の悲劇を再び繰り返さないため、自分たちや次の世代へと引き継いでいかなければなりません。過去から学び、未来に生かしていくことは、私たちの務めです。

戦争体験者の記憶と思い

中国で戦場へ出ておられた廣瀬さんにお話を聞きました。

「良く生きて帰れたな」

廣瀬さんは召集令状（赤紙）が家に届き、出征されました。軍隊の教育や訓練を受けた後、上海で嵐部隊に配属され、その中の通信部隊として戦場へ出られました。しばらくして工作員として活動されましたが、また

「無事に帰ってくることできて良かったと思っただが、周りでは戦死している人も多くいたのでとても手放しでは喜べなかった。」

戦争当時はお国のために軍へ入るのは名誉なこと、出征式はお祭騒ぎで村の人たちに万歳で見送られた。戦争がどういふものか実際自分の目で見て体験してしまうと、とてもあんなに晴れやかな気持ちで行くことはできない。」と話され、もう少し戦争が長引

いていけば無事に帰ってこられたかわからないと当時を振り返られます。

「戦争のことは次に伝えていかなければいけない」

戦争を繰り返さないためには、戦争を伝えていく必要があるとおっしゃいます。

「戦争の本当の悲惨さは戦場へ行った人や空襲等で被害を受けた人でないとわからない。自分も戦場に行くまでは、戦争というものの本当の怖さをはっきりとわかっていなかったように思う。戦場で武器を持ち、人が死んでいくのを見

る怖さは体験しないとわからない。それでも、想像はできる。戦争体験者がみんな高齢になり、多くの人が亡くなっている今、直接話を聞くのは難しくなってきたが、戦争体験者の子や孫が聞いた話を次へ伝えていくことはできる。そうやって次の世代へと戦争の恐ろしさを伝え、二度と戦争を起こさない世の中にしてもらいたい。」とお話しいただきました。



▲戦場へ行く前の廣瀬さん



ひろせ みそじ 廣瀬 三十二 さん (92歳)

戦争遺児の記憶と思い

戦争で父親を亡くされた遠城さんにお話を聞きました。

「父は帰ってくるものだ
と
思っていた」

遠城さんの父、伊三郎さんは満州で入隊し、始めは後方に配置されましたが、終戦間近の昭和20年4月ごろに前線に配置となり、そのまま終戦を迎えました。終戦後、後方の部隊は帰国できましたが、前線にいた人たちはソビエト軍の捕虜となりシベリアへ送られました。



遠城 輝雄 さん (78歳)

昭和18年ごろまでは手紙が届いていましたが、書く内容は規制されていたそうなので何をしているのかまったく知らず、生きて帰ってくるものだと思ってお父さんの帰りを待っておられました。しかし、昭和23年、戦病死したという通知が家に届きました。「遺骨を近江八幡まで取りに行つた。小さなつぼを渡され、少し揺るとカラカラと音が鳴った。中には小さな遺骨がひとつ入っていた。」と話されました。

終戦近くに徴兵された人は死ぬ覚悟で出征していた

め、遺品となるように髪や爪を残していく人も多かったようです。しかし、遠城さんのお父さんのように、それ以前に徴兵された人は帰ってくるつもりで出発されたので、遺品となるものは何も残っていないそうです。

「体験や思いを残したい」

東近江市の沖野にあった飛行場が空襲にあい、流れ弾が安部居に落ちたこともあったそうです。

「今の戦争を知らない人たちには『戦争は悲惨だ』ということを知ってもらいたい。今世界で起こっている戦争を見てもらってもわかると思う。70年前、日本でも同じことが起きていた。戦争をしたことで人々に身体的にも精神的にもどれだけの被害があったのか、難しく考えずに冷静な目で『戦争』を見直してもらいたい。戦争を知る人の経験や思いを次の世代へ引き継いでいかないといけない。平和を思うならそれしか方法はない。」とお話いただきました。



▲出征旗
(縦4.4m×横0.7m)

中学生が思う戦争と平和

長崎県で被爆体験者の話を聞いた生徒の感想を紹介します。



▲下平さんの講話を聞く中学生

日野中学校では3年の修学旅行で長崎県に行かれました。生徒たちは修学旅行へ出発するまでに、平和学習として太平洋戦争のことを学び、現地では原爆資料館の見学と被爆体験者である下平作絵さんの講演を聞かれました。学んで知ったこと、資料館で見た悲惨さ、話を聞いて感じた残酷さを忘れず、平和の尊さを次の世代へと引き継いでいきたいと思います。

下平作絵さんの講演を聴いて一番に思ったことは、ぼくたちは絶対に戦争をしてはいけないということです。

空襲警報が鳴ってからとまって、「もう大丈夫だろう」と思ったところに2回目の空襲が来て、たくさんの方が亡くなっていたことを知りました。

下平さんがぼくらに伝えてくださった、「世界のみんなで手をつないでいこう」と二度と戦争のない世の中にしてほしい」ということを考えながら、これからは生きていきたいです。

市田 悠真さん

私は平和学習と被爆体験講話を通して、あらためて戦争の恐ろしさ、残酷さがわかりました。下平さんのお話を聞いてみると、その時どんな思いだったのか、どんな状態だったかが伝わってきました。この貴重な体験を活かして、これから戦争のない世の中を作るために貢献していきたいと思いました。

角田 百代さん